

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン カタヤナギガクエン 学校法人 片柳学園									
フリガナ大学の名称	トウキョウコウカダイガクダイガクイン 東京工科大学大学院 (Graduate School of Tokyo University of Technology)									
大学本部の位置	東京都八王子市片倉町1404番地1号									
大学の目的	東京工科大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	医療を支える高度で専門的な知識・技術や指導力を備えるとともに、研究者としての基本的な能力を培い、教育・研究機関と医療現場とのコラボレーションによる調査・研究等を推進することができる医療従事者を養成する。 応用力・観察力・洞察力・分析力や科学的な論理的思考力・判断力等を身につけ、日々進歩する臨床検査分野の動向について自ら考え行動でき、医療に貢献できる人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医療技術学研究科 (Graduate School of Clinical Technology) 臨床検査学専攻 (Master's Program in Medical Technology) 計	2年	5人	—人	10人	修士(臨床検査学) (Master of Medical Technology)	令和3年4月 第1年次	東京都大田区西蒲田 五丁目23番22号		
【基礎となる学部】 医療保健学部 臨床検査学科										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	医療保健学部リハビリテーション学科 (160) (令和2年5月届出済み) 医療保健学部 理学療法学科 (廃止) (80) 作業療法学科 (廃止) (40) ※令和3年4月学生募集停止 医療保健学部看護学科 [定員減] (△40) (令和3年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	医療技術学研究科 臨床検査学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		
組織の概要	新設分	医療技術学研究科臨床検査学専攻 (M)		14	2	0	0	16	0	0
		計		14	2	0	0	16	0	0
組織の概要	既設分	バイオ・情報メディア研究科 バイオニクス専攻 (M)		19	1	1	3	24	0	0
		バイオ・情報メディア研究科 バイオニクス専攻 (D)		19	1	1	3	24	0	0
		バイオ・情報メディア研究科 コンピュータサイエンス専攻 (M)		12	7	6	1	26	0	0
		バイオ・情報メディア研究科 コンピュータサイエンス専攻 (D)		12	7	5	1	25	0	0
		バイオ・情報メディア研究科 メディアサイエンス専攻 (M)		13	7	2	2	24	0	0
		バイオ・情報メディア研究科 メディアサイエンス専攻 (D)		13	4	0	0	17	0	0

教員組織の概要	既設	学部等の名称	専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
		バイオ・情報メディア研究科 アントレプレナー専攻 (M)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		工学研究科 サステイナブル工学専攻 (M)	20 (20)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
		工学研究科 サステイナブル工学専攻 (D)	13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		デザイン研究科 デザイン専攻 (M)	7 (7)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		計	133 (127)	39 (35)	22 (19)	10 (5)	204 (186)	0 (0)	— (—)
		合計	90 (87)	27 (25)	16 (14)	6 (3)	139 (129)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		79 (79)		41 (41)		120 (120)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		80 (80)		41 (41)		121 (121)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	0㎡	341,996.22㎡	2,397.44㎡		344,393.66㎡			
	運動場用地	0㎡	36,158.00㎡	0㎡		36,158.00㎡			
	小計	0㎡	378,154.22㎡	2,397.44㎡		380,551.66㎡			
	その他	0㎡	23,635.10㎡	3,896.58㎡		27,531.68㎡			
	合計	0㎡	401,789.32㎡	6,294.02㎡		408,083.34㎡			
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
		140,622.01㎡	40,970.61㎡	111,739.79㎡		293,332.41㎡			
		(140,622.01㎡)	(40,970.61㎡)	(111,739.79㎡)		(293,332.41㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	72室	5室	284室	6室 (補助職員0人)	6室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
		医療技術学研究科臨床検査学専攻		16室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書（和書）149,018 図書（洋書）35,901 学術雑誌（和書）161 学術雑誌（洋書）33 電子ジャーナル（和書）12 電子ジャーナル（洋書）35 視聴覚資料 7,716 機械・器具 34,959 標本212	
	医療技術学研究所 臨床検査学専攻	78〔34〕 (28〔28〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	0 (0)	46 (46)	0 (0)		
	計	78〔34〕 (28〔28〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	0 (0)	46 (46)	0 (0)		
図書館	面積	4,496㎡		閲覧座席数	874席		収納可能冊数	大学全体	
							238,000冊		
体育館	面積	10,645㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
				テニスコート（5面）、50m公認プール					
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当り研究費等は 研究科単位での算出不能な ため、学部との合計
	教員1人当り研究費等		500千円	500千円	—	—	—	—	
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
	図書購入費	800千円	300千円	300千円	—	—	—	—	
	設備購入費	10,000千円	0千円	0千円	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,121千円	8900千円	—	—	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			検定料収入、手数料収入、資産運用収入、事業収入等をもって 支弁する。						
大 学 の 名 称 東京工科大学									
既 設 大 学 等 の 状 況	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
	バイオ・情報メディア研究科 バイオ専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士（バイオ） 又は博士 （工学）	1.66	平成17 年度	東京都八王子市 片倉町1404番地1号
	コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士（コンピ ュータサイ エンス）又 は博士（工 学）	1.66	平成17 年度	同上
	メディアサイエンス専攻 博士後期課程	3	2	—	6	博士（メディア サイエンス） 又は博士 （工学）	0.66	平成17 年度	同上
	バイオ専攻 修士課程	2	40	—	80	修士（バイオ） 又は修士 （工学）	0.63	平成17 年度	同上
	コンピュータサイエンス専攻 修士課程	2	30	—	60	修士（コンピ ュータサイ エンス）又 は修士（工 学）	0.86	平成17 年度	同上
	メディアサイエンス専攻 修士課程	2	30	—	60	修士（メディア サイエンス） 又は修士 （工学）	0.71	平成17 年度	同上
	アントレプレナー専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（アントレ プレナー）	0.85	平成17 年度	同上
	工学研究科 サステイナブル工学専攻 修士課程	2	30	—	60	修士（工学）	1.53	平成31 年度	同上
	サステイナブル工学専攻 博士後期課程	2	3	—	6	博士（工学）	0.00	平成31 年度	同上
	デザイン研究科 デザイン専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（デザイ ン）	1.00	平成31 年度	東京都大田区西蒲 田五丁目23番22号

	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	応用生物学部 応用生物学科	4	260	2年次 15 3年次 9	1,103	学士(バイオニクス)	1.08	平成15年度	東京都八王子市片倉町1404番地1号	平成20年4月入学者から、バイオニクス学部バイオニクス学科の名称を、応用生物学部応用生物学科に変更 平成29年度より入学定員増 240→260名(20名増)	
	コンピュータサイエンス学部 コンピュータサイエンス学科	4	290	2年次 18 3年次 12	1,238	学士(コンピュータサイエンス)	1.05	平成15年度	同上	平成27年度より入学定員減 480→300名(180名減) 平成29年度より入学定員減 300→290名(10名減)	
	メディア学部 メディア学科	4	290	2年次 17 3年次 12	1,235	学士(メディア学)	1.03	平成11年度	同上	平成27年度より入学定員減 400→300名(100名減) 平成29年度より入学定員減 300→290名(10名減)	
	工学部 機械工学科	4	100	2年次 5	415	学士(工学)	1.05	1.11	平成27年度	同上	
	電気電子工学科	4	100	2年次 5	415	学士(工学)	1.04	1.04	平成27年度	同上	
	応用化学科	4	80	2年次 3	329	学士(工学)	1.01	1.01	平成27年度	同上	
	医療保健学部 看護学科	4	120	—	480	学士(看護学)	1.01	1.05	平成22年度	東京都大田区西蒲田五丁目23番22号	平成26年度より入学定員増 80名→120名(40名増)
	臨床工学科	4	80	—	320	学士(臨床工学)	0.97	0.97	平成22年度	同上	
	理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法)	1.06	1.06	平成22年度	同上	令和3年度より学生募集停止
	作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法)	0.96	0.96	平成22年度	同上	令和3年度より学生募集停止
	臨床検査学科	4	80	—	320	学士(臨床検査)	0.97	0.97	平成26年度	同上	
	デザイン学部 デザイン学科	4	200	—	800	学士(デザイン)	1.08	1.08	平成22年度	同上	
	附属施設の概要	名称：東京工科大学片柳研究所 目的：諸科学協調の立場から先端的研究を行い、社会の発展に寄与する。 所在地：東京都八王子市片倉町1404番地1号 設置年月：平成12年4月 規模等：土地 八王子キャンパス敷地内 建物 44,717㎡(ただし、一般教室、応用生物学部及び工学部応用化学科の研究室・研究実験室を含む)									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医療技術学研究科 臨床検査学専攻 修士課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 基 礎 科 目	医療技術学概論	1前	2			○			14						オムニバス
	臨床検査学研究方法論	1前	2			○			5						オムニバス
	医療コミュニケーション技術論	1前	2			○			1						
	医療情報技術総論	1前	2			○			3						オムニバス
	医療機器総論	1前		2		○			4	2					オムニバス
	病態情報検査学	1前		2		○			4	1					オムニバス
	医療安全管理論	1前		1		○			1						
	遺伝子関連検査学	1前		1		○			2						オムニバス
	医療制度・管理論	1前		1		○			1						
	小計(9科目)		—	8	7	0		—		14	2	0	0	0	
専 門 領 域 科 目	病 態 機 能 検 査 学 領 域	生理機能検査学特論	1後		2		○			1					
		生理機能検査学演習	1後		2			○		1					
		血液病態学特論	1後		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
		血液病態学演習	1後		2			○		1	1				オムニバス・共同(一部)
	病 因 解 析 検 査 学 領 域	生体情報解析学特論	1後		2		○			4					オムニバス
		生体情報解析学演習	1後		2			○		4					オムニバス
		分析化学検査学特論	1後		2		○			2					オムニバス
		分析化学検査学演習	1後		2			○		2					オムニバス
		感染制御学特論	1後		2		○			1					
		感染制御学演習	1後		2			○		1					
小計(10科目)		—	0	20	0		—		6	1	0	0	0		
研 究 科 目	医療技術学研究企画	1前	2				○		14	2					
	医療技術学研究Ⅰ	1後	4				○		14	2					
	医療技術学研究Ⅱ	2前	4				○		14	2					
	医療技術学研究Ⅲ	2後	4				○		14	2					
	小計(4科目)		—	14	0	0		—		14	2	0	0	0	
合計(23科目)			—	22	27	0		—		14	2	0	0	0	
学位又は称号	修士(臨床検査学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
2年以上在学したうえで、専門基礎科目及び専門領域科目並びに研究科目から所定の計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、本大学院の行う修士論文の審査および最終試験に合格したものに学位を与える。 専門基礎科目： 必修科目8単位、選択科目4単位以上(計12単位以上) 専門領域科目： 病態機能検査学領域または病因解析検査学領域から特論科目と演習科目をそれぞれ2単位(計4単位) 研究科目： 研究から必修科目14単位(計14単位)								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(医療技術学研究科 臨床検査学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	医療技術学概論	<p>(概要)医療技術の進歩は高度医療の進展に欠かせないものであり、最新の医療技術や理論に対応し自らの研究能力を高めるため、専門分野に偏ることなく広い視野を持って課題に対応することが必要不可欠である。研究能力を養う目的で、医療技術だけでなく広く医療に関連する最新の研究事例を紹介し、関連分野の知識を学ぶ。</p> <p>本講義では、臨床検査分野だけでなく医療分野や医療技術に関連する分野での最新研究、具体的には新しい検査法・診断技術の紹介や医療技術へ応用可能な最先端の基礎的研究等を紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 柴崎芳一 / 2回) 生物学・医学分野の中から基本的な考え方を体得できるテーマを選び解説する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p> <p>(2 梅田勝 / 1回) 保険点数の最新の動向を紹介し、医療現場が要求する臨床検査技術の動向について概括する。</p> <p>(3 岡崎充宏 / 1回) 臨床検査分野の微生物学及び臨床微生物学に関する最新のトピックス(遺伝子検査や質量分析等)を紹介し、解説する。</p> <p>(4 栗原由利子 / 1回) 臨床検査分野の生化学検査学に関する最新のトピックスを紹介し、解説する。</p> <p>(5 櫻井進 / 1回) 臨床検査分野の生理検査学に関する最新のトピックスを紹介し解説する。</p> <p>(6 佐々木聰 / 1回) 臨床検査分野に応用が期待される各種分析機器の原理と応用例を紹介する。</p> <p>(7 篠原一彦 / 1回) 内視鏡外科手術やInterventional Radiologyに代表される低侵襲治療の概要と進歩について解説する。</p> <p>(8 清水潤 / 1回) 筋ジストロフィー、炎症性筋疾患、加齢や廃用に伴う骨格筋萎縮等ヒトの様々な骨格筋病態に関して説明し、治療法開発や病態解明の展望を解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目		<p>(9 田仲浩平 / 1回) 生理機能計測及び治療機器に関する最新トピックスを紹介、解説する。</p> <p>(10 十島純子 / 1回) 臨床検査分野に関連する生命科学研究について、主に分子レベルの研究に関する最近の知見を解説する。</p> <p>(11 苗村潔 / 1回) 臨床検査及び治療で行なわれる針の穿刺技術に関する最新のトピックスを紹介し、解説する。</p> <p>(12 中川和美 / 1回) 電気生理学を中心とした精神生理学的な手法による神経・精神機能の評価やその応用としての精神科医療・メンタルヘルスに関する最新の話題について紹介し、解説する。</p> <p>(13 細萱茂実 / 1回) 臨床検査のクオリティマネジメントシステムに関する国際的動向について解説する。</p> <p>(14 横田恭子 / 1回) 感染症領域における各種検査法の進歩について最新のトピックを紹介し、解説する。</p>	
	臨床検査学研究方法論	<p>(概要) 臨床検査学領域に関する幅広い視野を有する高度な専門職業人として研究遂行に必要な質の高い国内外の論文抄読を行い、仮説の立案から科学的な検証に至るまでの研究過程における研究方法について学修する。 本講義では、臨床研究の現状と課題、研究倫理、レギュラトリーサイエンス、統計、データ解析、データベース検索、データ分析を学び、研究遂行能力を修得する。また自ら新しい研究テーマを探求・遂行できるよう将来の展望も含め解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 柴崎芳一 / 6回) 生物学・医学の研究の現状を紹介し、実験データの評価の仕方、研究発表の概要を、発表論文を深く講読すること等を通して解説する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p> <p>(4 栗原由利子 / 2回) 実験データのまとめ方、検査結果の妥当性の検討について解説する。</p> <p>(6 佐々木聰 / 3回) 得られたデータをまとめて報告するうえで、背景、目的、実験から結果と考察まで、論理的に記述する手法の基礎を例を交えて解説する。</p> <p>(8 清水潤 / 2回) 新規性、社会還元性、実現性等研究スタートのもととなる研究根拠の重要性について、直近の臨床及び臨床検査の研究論文記載を解析することにより修得する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目		(10 十島純子 / 2回) 研究テーマの探し方、興味を持った対象から研究テーマにする過程を、実例を交えて解説する。	
	医療コミュニケーション技術論	近年、医療現場や研究組織において、質の高い生産的なコミュニケーションが求められている。「個人(患者、家族等)」「集団(医療現場や研究組織の構成員等)」「社会(地域、企業等)」を対象として、医療・保健に関わる指導や啓発活動、仕組みづくり、組織運営、IoTユーザーインターフェース設計などを行うためには、心理学、社会科学、行動科学等の理論に基づいたコミュニケーション技術を用いることが有効である。 本講義では、その理論と実践についていくつかのモデルを理解し、受講者各自の専門領域に活かせる技術を修得する。	
	医療情報技術総論	(概要) AI、IoT、ビッグデータ等、情報技術の進化に伴い、医療現場でも情報管理や情報収集が行われており、情報の活用範囲は飛躍的に増大している。 本講義ではデータの関連付け、統計解析などの情報の活用や、セキュリティやネットワーク、電子カルテ等の情報管理について学ぶことで、情報技術の現状について理解し、今後の展開についても自ら検討できるように医療情報学の重要性を学ぶ。 (オムニバス方式 / 全15回) (3 岡崎充宏 / 5回) 臨床検査分野の臨床微生物学における感染症患者情報と病原体の最新情報の収集と活用方法を解説し、病態解析に役立てる。 (11 苗村潔 / 5回) ウェアラブル情報機器による検査データ計測、個人情報セキュリティ、画像の治療への応用の現状について解説する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。 (13 細萱茂実 / 5回) 医療情報に関する統計的記述法及び統計的推測法について学ぶ。	オムニバス方式
	医療機器総論	(概要) 医療の高度化に伴い、生体計測機器、検査機器、治療機器も高度に電子化され進化してきた。進化した医療機器を正確にかつ安全に取り扱うためには、データ分析力の理解と、医療機器の特性を理解し操作・管理するための高い技術力が求められる。 本講義では、最新の生体計測機器及び検査機器、また、治療機器についての構造、原理、特性とともに課題について理解する。今後の医療機器及び医療技術への期待と展望について討議する。 (オムニバス方式 / 全15回)	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目		<p>(3 岡崎充宏 / 1回) 臨床検査分野の微生物検査で使用される機器の精度管理、得られた結果の解釈等を解説する。また、学会等に参加し、機器展示会場等で最新情報を学ぶ。</p> <p>(4 栗原由利子 / 2回) 臨床検査室で用いられる自動分析機におけるトラブルの事例を紹介し、その対処法について解説する。</p> <p>(5 櫻井進 / 3回) 生理検査学で用いられる代表的な検査機器に関する特徴を紹介する。また、生体信号を収集する際の正しく安全に使用するための課題を紹介し解説する。</p> <p>(9 田仲浩平 / 3回) 生体計測機器及び治療機器等、医療機器の特性理解と安全使用に関する操作・管理技術について解説する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p> <p>(15 日向奈恵 / 3回) フローサイトメーターの病理診断における応用や問題点について解説する。</p> <p>(16 廣田雅子 / 3回) 血液検査で使用する検査機器における問題点改良の歴史と、最新機器の構造・原理について解説する。</p>	
	病態情報検査学	<p>(概要) 検査情報を臨床現場で活用できる能力を養うことを目的とし、臨床所見や検査データをもとに各種疾患の病因・病態との関連を学び、臨床ニーズに応え問題解決につながる総合的実践力を修得する。 本講義では信頼できる検査情報を得るための精度管理法について学ぶ。また様々な疾病に共通する病態生理、さらに代表的な疾患における特徴的な病態について学び、検査情報がどのように活用されているかについて症例を用いて紹介する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(6 佐々木聡 / 3回) 検査情報を活用するために必要となるデータの表現の仕方について解説する。</p> <p>(8 清水潤 / 3回) 脳神経疾患、末梢神経筋疾患の臨床診断に用いられる電気生理的、病理的、血清学的、遺伝子検査等の臨床検査の実際、臨床症状と所見や検査データとの対応、病態解明への応用について代表的な疾患を取り上げ、解説する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目		<p>(13 細萱茂実 / 3回) 臨床検査データの判読基準と技術的信頼性の関連及び臨床的有用性評価法について解説する。</p> <p>(14 横田恭子 / 3回) 感染症の病態を理解する上で必要な検査について理解を深める。特徴的な症例を提示しながら検査情報の実用的な活用方法を紹介する。</p> <p>(16 廣田雅子 / 3回) 血液検査結果における基準値と精度管理について教授するとともに、血液検査の異常値より考えられる疾患・現象について、事例を通して解説する。</p>	
	医療安全管理論	<p>医療従事者は患者に対し安全な医療を提供するために医療過程で生じる種々の問題を低減する必要がある。</p> <p>本講義では医療現場での安全を守るための知識や技術について、ヒューマンエラーの認知科学的基礎、ソフトウェア/ハードウェア・マネジメントからみた事故事例と対策、事例分析の手法、チーム形成・危険予知活動等について、事故事例と対策等も含めて学ぶ。また医療安全に関する理論・原則について学修し、医療安全の推進にかかわるシステムや医療施設における組織的な取り組み等を紹介し、事例解析を行う。</p>	
	遺伝子関連検査学	<p>(概要) 臨床検査の現場において遺伝子検査は重要な位置を占めるようになってきている。感染症の診断へ応用されつつある遺伝子検査について、原理、応用、問題点、最新技術を含め学ぶ。</p> <p>本講義では細菌感染症やウイルス感染症の診断に欠かせない遺伝子検査について、原理と診断への応用を学び、臨床的な有用症例について紹介する。特に、毎年社会問題に発展するインフルエンザウイルス感染について遺伝子検査を応用した最新の検査法の開発等も紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(3 岡崎充宏 / 4回) 病原体の診断や病原因子の検出及び感染制御に有効な遺伝子検査方法を解説する。</p> <p>(14 横田恭子 / 4回) HIVやインフルエンザウイルス等のウイルスゲノム遺伝子検出の現状、最新の検査法を紹介し、その問題点を理解すると同時に新しい検査法について討議・考察する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	医療制度・管理論	<p>将来、医療技術分野においてリーダー的存在になるためには医療制度や社会保険制度について学ぶ必要がある。</p> <p>本講義では社会保険の概説、国民医療費、健康保険制度、点数表・DRG制度、医療・介護の経済規模、社会福祉制度の問題点について論じ、制度変革への対応実例を提示し学修する。</p> <p>地域における医療機関の重要性を医療制度また経済的インパクトから解説する。医療機関における人的管理、物品管理、制度改革と医療・介護機関の対応について論じ、病院管理の実例報告と改善方法の提案を行う。</p>	
専門領域科目	生理機能検査学特論	<p>医療従事者が行うことができる代表的な生理機能検査について概説する。生理機能検査を臓器別または方法論別に系統的な研究実施に見た場合の視点から講義を行う。現時点での臓器別または方法論における各種課題に基づいて講義を行う。</p> <p>また、生理機能検査の研究において必要とされる、研究課題の見出し方、実際に行う研究実施の前・中・後の具体的な方法及び、研究成果の記録とまとめ等について教授する。</p>	
	生理機能検査学演習	<p>心電図検査、超音波検査や味覚検査等の生体機能検査に関する幅広い知識を得ることを目的とする。そして、医療現場における当該領域の新たな要望を検索する。また、医療現場においてどのような課題が討議されているかを学修する。さらに、医療現場においてどのような貢献が望ましいかについて、文献検索を通じて収集し、その論文の問題点を討議する。</p>	
	血液病態学特論	<p>(概要)免疫異常症、血液腫瘍系疾患や血栓止血異常症、血漿蛋白異常症等の免疫・血液学関連疾患の病因・病態を理解するための最新の知識を学修することにより、免疫・血液分野における新しい検査・診断法の開発にもつながる研究について自ら発案・計画し、討議・発表する能力を養う。この過程において、医療現場で有用な遺伝子解析、形態学解析及び分子機能解析の知識及び技術を修得することができる。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(14 横田恭子 / 7回) 生体防御機能のプロセスについて修得する。 免疫・血液学概論、免疫不全症・アレルギーの病因・病態の理解、診断・検査法、自己免疫疾患の病因・病態の理解、診断・検査法、先天性免疫・血液疾患とその病因・病態の理解、診断・検査法について教授・討議する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p> <p>(16 廣田雅子 / 7回) 血液疾患の成因及び病態について修得する。 血液腫瘍系疾患の病因・病態の理解、検査・解析法、血栓止血異常症の病因・病態の理解、検査・解析法、血漿蛋白異常症の病因・病態の理解、検査・解析法について教授・討議する。</p>	オムニバス方式・一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	病態機能検査学領域	(14 横田恭子・16 廣田雅子 / 1回)(共同) 免疫疾患、血液疾患について、まとめと総合討議を行う。	
	血液病態学演習	<p>(概要) 近年、骨髄や末梢に存在する血液細胞の単一細胞レベルでのRNAや蛋白発現レベルを同時かつ網羅的に解析するバイオインフォーマティクス手法により、これまでにない画期的な研究成果が次々に報告されてきている。元来、多くの臨床検査が免疫学的手法を基本としたものであり、免疫血液分野での検査法はこの様な背景を元に更に急速に進歩していくことが予想される。この講義では免疫血液分野における新しい検査・診断法を学修することにより、医療現場で有用な遺伝子解析、形態学解析及び分子機能解析の技術や応用・その発展性について理解し修得する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全30回)</p> <p>(14 横田恭子 / 14回) 血液・免疫領域の遺伝子検査学に関する文献詳読と討議を行う。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p> <p>(16 廣田雅子 / 14回) 白血病・リンパ腫等の造血器腫瘍や血液凝固・線溶機序等の血栓止血分野の診断と治療に関する文献詳読を通して、血液疾患の成因、病態及び血液検査学について深く探究し、血液疾患並びに血液検査学における研究動向について討議を行う。</p> <p>(14 横田恭子・16 廣田雅子 / 2回)(共同) 免疫・血液疾患のまとめと総合討議を行う。</p>	オムニバス方式・一部共同
病因解析検査学領域	生体情報解析学特論	<p>(概要) 臨床検査で得られる生体情報を有効活用するための、臨床的有用性の評価法、及び技術的信頼性の評価法について学ぶ。それにより健康診断や臨床診断における臨床検査の有用性向上につなげる高度な専門的知識を養い、診療ニーズに応える問題解決力や総合的実践力、他の医療従事者や患者への説明・対応力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(3 岡崎充弘 / 3回) 細菌感染症事例をもとに臨床診断に必要な各種の検査項目の意義、判読及び結果の解釈を学び、実践医療における臨床医への検査説明力を実践する。また、細菌検査事例をもとに検査精度の保証について学ぶ。</p> <p>(4 栗原由利子 / 2回) 健康診断の検査結果の解析、その有用性について学修する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	病因解析検査学領域	<p>(13 細萱茂実 / 8回) 臨床検査情報の技術的信頼性の評価及び臨床的有用性向上を支援する統計技術について学ぶ。また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p> <p>(14 横田恭子 / 2回) 過去のウイルス感染症事例を踏まえ、臨床診断に必要な最新の検査法の理論及びその診断的意義や問題点について学修する。</p>	
	生体情報解析学演習	<p>(概要) 生体情報解析学特論で学んだ事例等を基盤として、より広範囲に国内外の多様な事例を学ぶ。そのために国内外の論文から生体情報の技術的信頼性の保証と臨床的有用性の向上に関する理論と技術について、医療現場における応用・実践の具体例を学ぶ。臨床検査の有効活用につながる検査結果の精度保証や臨床的有用性に関する論文を中心に抄読するとともに、真理を探究するための研究的価値を見出すための討議を行う。</p> <p>(オムニバス方式 / 30回)</p> <p>(3 岡崎充宏 / 6回) 臨床微生物検査領域における病原体と感染症事例の生体情報との関連性から、検査の技術的信頼性評価と臨床的有用性の向上に資する理論と技術について、医療現場における応用・実践の具体例を学ぶ。</p> <p>(4 栗原由利子 / 4回) 検査技術的信頼性に関する国内外の論文について抄読・討議する。</p> <p>(13 細萱茂実 / 16回) 臨床検査情報の技術的信頼性評価及び臨床的有用性向上を支援する統計技術について、実践データを用い知識と技術を修得する。また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p> <p>(14横田恭子 / 4回) 新たに発生した危険度の高いウイルス感染症に関わる論文の情報をもとに、その診断について臨床検査で必要となる知識の修得と新たな検査技術の開発について討議する。</p>	オムニバス方式
	分析化学検査学特論	<p>(概要) 臨床検査で用いられる種々の計測法や分析法の理論及び先端技術を学び、化学分析技術の基盤を修得する。生体試料別に適切な分析法の選択について解説し、分析に影響を及ぼす因子について学び、その除外法について討議する。また臨床所見や検査データをもとに、検査情報を臨床現場で活用できる高度な専門的知識を養い、臨床ニーズに応え問題解決につながる総合的実践力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	病因解析検査学領域	<p>(4 栗原由利子 / 7回) 生体試料分析における適切な分析法の選択、酵素法における分析感度の影響因子、臨床検査データの活用について修得する。</p> <p>(6 佐々木聰 / 8回) 生体機能計測の技術について、理論及び臨床検査への応用について修得し、情報化社会における臨床検査データの活用について討議する。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p>	
	分析化学検査学演習	<p>(概要) 先端技術を駆使した検査分析法について、Contemporary Practice in Clinical Chemistry を抄読・討議し、英文論文を的確に理解できるようにするとともに、国内外の論文を検索し臨床現場への応用・実践例を学ぶことで生化学検査分野における潮流を知る。医療現場で要求される様々な課題の解決につながる分析法、検査法の開発・活用・臨床的評価等、医療に貢献できる臨床検査技術を集学的に討議、修得する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全30回)</p> <p>(4 栗原由利子 / 16回) Contemporary Practice in Clinical Chemistry, Fourth Edition を用いて、生化学検査についての海外での動向を修得したうえで、生化学検査学に関する文献詳読と討議を行う。</p> <p>(6 佐々木聰 / 14回) 先端技術を駆使した成分分析に関する文献詳読と討議を行う。 また、科目の責任者として全体の取りまとめと成績評価を行う。</p>	オムニバス方式
	感染制御学特論	<p>感染制御学は、病原微生物の封じ込みを徹底するための戦略を探究する学問であり、感染症学や臨床微生物学等の領域とも密接に関連している。本講義では、感染症の病因における宿主と病原微生物との関連性及び病原微生物の拡散の機序とその挙動を監視するための方法を学び、これらを基盤に感染制御に資するための高度な専門的知識を養い、実践現場における問題解決につながる実践力及びそれらを後進に指導できる能力を修得する。</p>	
	感染制御学演習	<p>感染制御学は比較的新しい学問であるため、感染制御学特論で学んだ知識を基盤とし、国内外において発生した感染症事例について論文を精読・討議を通じて詳細に紐解く。医療関連感染及び市井感染における感染制御のアプローチを学ぶ。また、one healthの概念に基づきヒト、動物、環境から感染制御をアプローチする最新の考え方を理解し、専門力や問題解決力を高めるとともに、高度な説明力が求められるチーム医療に不可欠なコミュニケーション力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	医療技術学研究企画	<p>(概要) 研究者としての基礎的能力(研究企画立案・検証能力、実験データ修得・解析能力、考察力、プレゼンテーション能力)を養う。 医療技術学研究企画では、各領域における専任教員が、各々の研究分野における高い専門性のある研究や臨床上の課題・疑問をテーマとして検討し、研究テーマの選定及び研究計画を立てる。</p> <p>(1 柴崎芳一) 膜蛋白シグナルに関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(2 梅田勝) 病院管理学の立場から、臨床検査技術の経済的な評価に対しての課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(3 岡崎充宏) 医療関連施設において問題となっている薬剤耐性菌株の「One Health」の理念に基づくヒト-動物-自然環境間の拡散の調査及びその防御法の探索に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(4 栗原由利子) 血中生化成分検出法の高感度化に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(5 櫻井進) ①弱高圧空気カプセルによる心身の健康効果に関する臨床研究、②味覚検査における基準法の妥当性の検証、③味覚検査における検査環境が味覚閾値に及ぼす影響に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(6 佐々木聰) ①時間とともに変化する細胞の代謝速度の計測、②周期的に変化する環境が細胞にもたらす影響の計測に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(7 篠原一彦) 外科学・医用工学・人間工学の立場から、医療技術と医療システムに関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(8 清水潤) 病理診断学の立場から、末梢神経筋疾患の病態解明に必要な所見評価に関する課題調査・計画立案を指導する。</p> <p>(9 田仲浩平) 臨床工学の立場から、医療機器に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(10 十島純子) Gタンパク質共役型受容体(GPCR)の活性調節機構の解明に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目		<p>(11 苗村潔) 医用精密機械工学・医用ロボティクスの立場から、臨床検査に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(12 中川和美) 精神生理学及びストレス科学の立場から、臨床検査による神経・精神機能の評価やその応用に関する課題調査・計画立案を指導する。</p> <p>(13 細萱茂実) 臨床検査値における技術的・生理的変動要因の解析と臨床的有用性評価に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(14 横田恭子) ①HIVの潜伏感染を制御するT細胞因子、②インフルエンザウイルス感染あるいはワクチンで誘導される宿主免疫応答に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(15 日向奈恵) フローサイトメーターを用いたがん組織のDNA Ploidy解析に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(16 廣田雅子) 末梢血および骨髓血の形態検査に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p>	
	医療技術学研究 I	<p>(概要) 研究者としての基礎的能力(研究企画立案・検証能力、実験データ修得・解析能力、考察力、プレゼンテーション能力)を養う。 医療技術学研究 I では、各領域における専任教員が、各々の研究分野における高い専門性のある研究や臨床上の課題・疑問をテーマとして掲げ、研究理論、研究方法、結果の解釈や考察、倫理観等の議論を深め、研究の導入となる思考過程に結びつく学修をする。</p> <p>(1 柴崎芳一) 膜蛋白シグナルに関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(2 梅田勝) 病院管理学の立場から、臨床検査技術の経済的な評価に対しての課題調査・研究を指導する。</p> <p>(3 岡崎充宏) 医療関連施設において問題となっている薬剤耐性菌株の「One Health」の理念に基づくヒト-動物-自然環境間の拡散の調査及びその防御法の探索に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(4 栗原由利子) 血中生化学成分検出法の高感度化に関する課題調査・研究を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目		<p>(5 櫻井進) ①弱高圧空気カプセルによる心身の健康効果に関する臨床研究、②味覚検査における基準法の妥当性の検証、③味覚検査における検査環境が味覚閾値に及ぼす影響に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(6 佐々木聰) ①時間とともに変化する細胞の代謝速度の計測、②周期的に変化する環境が細胞にもたらす影響の計測に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(7 篠原一彦) 外科学・医用工学・人間工学の立場から、医療技術と医療システムに関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(8 清水潤) 病理診断学の立場から、末梢神経筋疾患の病態解明に必要な所見評価に関する課題調査・計画立案を指導する。</p> <p>(9 田仲浩平) 医療機器に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(10 十島純子) Gタンパク質共役型受容体(GPCR)の活性調節機構の解明に関する研究を指導する。</p> <p>(11 苗村潔) 医用精密機械工学・医用ロボティクスの立場から、臨床検査に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(12 中川和美) 精神生理学及びストレス科学の立場から、臨床検査による神経・精神機能の評価やその応用に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(13 細萱茂実) 臨床検査値における技術的・生理的変動要因の解析と臨床的有用性評価に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(14 横田恭子) ①HIVの潜伏感染を制御するT細胞因子、②インフルエンザウイルス感染あるいはワクチンで誘導される宿主免疫応答に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(15 日向奈恵) フローサイトメーターを用いたがん組織のDNA Ploidy解析に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(16 廣田雅子) 末梢血及び骨髄血の形態検査の検討に関する課題調査・研究を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	医療技術学研究Ⅱ	<p>(概要) 研究者としての基礎的能力(研究企画立案・検証能力、実験データ修得・解析能力、考察力、プレゼンテーション能力)を養う。 医療技術学研究Ⅱでは、研究指導教員が、各分野において実績のある専門研究領域の範囲で、学生が持つ専門性と関連が深い研究テーマに則って、院生と研究を遂行する。研究テーマを実行するにあたり、①論文調査、②研究倫理、③研究の実施、④結果の解析と考察等の指導を行う。</p> <p>(1 柴崎芳一) 膜蛋白シグナルに関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(2 梅田勝) 病院管理学の立場から、臨床検査技術の経済的な評価に対する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(3 岡崎充宏) 医療関連施設において問題となっている薬剤耐性菌株の「One Health」の理念に基づくヒト-動物-自然環境間の拡散の調査およびその防御法の探索に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(4 栗原由利子) 血中生化学成分検出法の高感度化に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(5 櫻井進) ①弱高圧空気カプセルによる心身の健康効果に関する臨床研究、②味覚検査における基準法の妥当性の検証、③味覚検査における検査環境が味覚閾値に及ぼす影響に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(6 佐々木聰) ①時間とともに変化する細胞の代謝速度の計測、②周期的に変化する環境が細胞にもたらす影響の計測に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(7 篠原一彦) 外科学・医用工学・人間工学の立場から、医療技術と医療システムに関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(8 清水潤) 病理診断学の立場から、末梢神経筋疾患の病態解明に必要な所見評価に関する課題調査・計画立案を指導する。</p> <p>(9 田仲浩平) 医療機器に関する課題調査・研究計画立案を指導する。</p> <p>(10 十島純子) Gタンパク質共役型受容体(GPCR)の活性調節機構の解明に関する研究を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目		<p>(11 苗村潔) 医用精密機械工学・医用ロボティクスの立場から、臨床検査に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(12 中川和美) 精神生理学及びストレス科学の立場から、臨床検査による神経・精神機能の評価やその応用に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(13 細萱茂実) 臨床検査値における技術的・生理的変動要因の解析と臨床的有用性評価に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(14 横田恭子) ①HIVの潜伏感染を制御するT細胞因子、②インフルエンザウイルス感染あるいはワクチンで誘導される宿主免疫応答に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(15 日向奈恵) フローサイトメーターを用いたがん組織のDNA Ploidy解析に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(16 廣田雅子) 末梢血及び骨髄血の形態検査に関する課題調査・研究を指導する。</p>	
	医療技術学研究Ⅲ	<p>(概要) 研究者としての基礎的能力(研究企画立案・検証能力、実験データ習得・解析能力、考察力、プレゼンテーション能力)を養う。 医療技術学研究Ⅲでは、研究Ⅱまで進めてきた研究を継続させるとともに、研究のまとめとして学会や修士論文発表会等での研究発表等も行うとともに修士課程の学位にふさわしい研究論文を完成させる。</p> <p>(1 柴崎芳一) 膜蛋白シグナルに関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(2 梅田勝) 病院管理学の立場から、臨床検査技術の経済的な評価に対しての研究について研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(3 岡崎充宏) 医療関連施設において問題となっている薬剤耐性菌株の「One Health」の理念に基づくヒト-動物-自然環境間の拡散の調査およびその防御法の探索に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(4 栗原由利子) 血中生化学成分検出法の高感度化に関する研究論文作成・発表を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目		<p>(5 櫻井進) ①弱高圧空気カプセルによる心身の健康効果に関する臨床研究、②味覚検査における基準法の妥当性の検証、③味覚検査における検査環境が味覚閾値に及ぼす影響に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(6 佐々木聰) ①時間とともに変化する細胞の代謝速度の計測、②周期的に変化する環境が細胞にもたらす影響の計測に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(7 篠原一彦) 外科学・医用工学・人間工学の立場から、医療技術と医療システムに関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(8 清水潤) 病理診断学の立場から、末梢神経筋疾患の病態解明に必要な所見評価に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(9 田仲浩平) 医療機器に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(10 十島純子) Gタンパク質共役型受容体(GPCR)の活性調節機構の解明に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(11 苗村潔) 医用精密機械工学・医用ロボティクスの立場から、臨床検査に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(12 中川和美) 精神生理学及びストレス科学の立場から、臨床検査による神経・精神機能の評価やその応用に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(13 細萱茂実) 臨床検査値における技術的・生理的変動要因の解析と臨床的有用性評価に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(14 横田恭子) ①HIVの潜伏感染を制御するT細胞因子、②インフルエンザウイルス感染あるいはワクチンで誘導される宿主免疫応答に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(15 日向奈恵) フローサイトメーターを用いたがん組織のDNA Ploidy解析に関する研究論文作成・発表を指導する。</p> <p>(16 廣田雅子) 末梢血及び骨髓血の形態検査に関する研究論文作成・発表を指導する。</p>	

学校法人 片柳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東京工科大学				東京工科大学				
応用生物学部 応用生物学科	260	2年次 15 3年次 9	1,103	応用生物学部 応用生物学科	260	2年次 15 3年次 9	1,103	
コンピュータサイエンス学部 コンピュータサイエンス学科	290	2年次 18 3年次 12	1,238	コンピュータサイエンス学部 コンピュータサイエンス学科	290	2年次 18 3年次 12	1,238	
メディア学部 メディア学科	290	2年次 17 3年次 12	1,235	メディア学部 メディア学科	290	2年次 17 3年次 12	1,235	
工学部				工学部				
機械工学科	100	2年次 5	415	機械工学科	100	2年次 5	415	
電気電子工学科	100	2年次 5	415	電気電子工学科	100	2年次 5	415	
応用化学科	80	2年次 3	329	応用化学科	80	2年次 3	329	
医療保健学部 看護学科	120	—	480	医療保健学部 看護学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	定員変更(△40)
臨床工学科	80	—	320	臨床工学科	80	—	320	
理学療法学科	80	—	320		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和3年4月学生募集停止 令和3年4月学生募集停止 学科及び専攻の設置(届出)
作業療法学科	40	—	160		<u>0</u>	—	<u>0</u>	
				<u>リハビリテーション学科</u> 理学療法専攻	<u>80</u>	—	<u>320</u>	
				作業療法専攻	<u>40</u>	—	<u>160</u>	
				言語聴覚専攻	<u>40</u>	—	<u>160</u>	
臨床検査学科	80	—	320	臨床検査学科	80	—	320	
デザイン学部 デザイン学科	200	—	800	デザイン学部 デザイン学科	200	—	800	
計	1,720	2年次 63 3年次 33	7,135	計	1,720	2年次 63 3年次 33	7,135	
東京工科大学大学院				東京工科大学大学院				
バイオ・情報メディア研究科 バイオニクス専攻(M)	40	—	80	バイオ・情報メディア研究科 バイオニクス専攻(M)	40	—	80	
バイオニクス専攻(D)	2	—	6	バイオニクス専攻(D)	2	—	6	
コンピュータサイエンス専攻(M)	30	—	60	コンピュータサイエンス専攻(M)	30	—	60	
コンピュータサイエンス専攻(D)	2	—	6	コンピュータサイエンス専攻(D)	2	—	6	
メディアサイエンス専攻(M)	30	—	60	メディアサイエンス専攻(M)	30	—	60	
メディアサイエンス専攻(D)	2	—	6	メディアサイエンス専攻(D)	2	—	6	
アントレプレナー専攻(M)	10	—	20	アントレプレナー専攻(M)	10	—	20	
工学研究科				工学研究科				
サステイナブル工学専攻(M)	30	—	60	サステイナブル工学専攻(M)	30	—	60	
サステイナブル工学専攻(D)	3	—	9	サステイナブル工学専攻(D)	3	—	9	
デザイン研究科				デザイン研究科				
デザイン専攻(M)	10	—	20	デザイン専攻(M)	10	—	20	
計	159		327	計	159		327	
				医療技術学研究科				
				臨床検査学専攻(M)				研究科の設置(認可申請)
				<u>5</u>	—	<u>10</u>		
				計	164		337	

日本工学院専門学校			
工業専門課程			
ゲームクリエイター科(四年制)	120	—	480
ゲームクリエイター科(二年制)	120	—	240
CG映像科(三年制)	80	—	240
Webクリエイター科(三年制)	40	—	120
インテリアデザイン科(三年制)	40	—	120
プロダクトデザイン科(三年制)	40	—	120
ITスペシャリスト科(四年制)	80	—	320
AIシステム科(二年制)	80	—	160
情報処理科(二年制)	120	—	240
パソコン・ネットワーク科(二年制)	40	—	80
情報ビジネス科(二年制)	80	—	160
電子・電気科(二年制)	120	—	240
環境・バイオ科(二年制)	40	—	80
建築学科(四年制)	40	—	160
建築設計科(二年制)	80	—	160
機械設計科(二年制)	40	—	80
芸術専門課程			
放送芸術科(二年制)	120	—	240
声優・演劇科(二年制)	120	—	240
演劇スタッフ科(二年制)	80	—	160
マンガ・アニメーション科(四年制)	40	—	160
マンガ・アニメーション科(二年制)	200	—	400
グラフィックデザイン科(三年制)	40	—	120
ミュージックアーティスト科(二年制)	40	—	80
コンサート・イベント科(二年制)	320	—	640
音響芸術科(二年制)	120	—	240
ダンスパフォーマンス科(二年制)	80	—	160
計	2,320		5,440
日本工学院北海道専門学校			
工業専門課程			
情報処理科(二年制)	60	—	120
建築学科(二年制)	50	—	100
電気工学科(二年制)	40	—	80
自動車整備科(二年制)	50	—	100
文化・教養専門課程			
CGデザイナー科(二年制)	20	—	40
公務員1年制学科	30	—	30
公務員2年制学科	30	—	60
医療専門課程			
医療事務科(二年制)	20	—	40
商業実務専門課程			
ホテル科(二年制)	30	—	60
計	330		630
日本工学院八王子専門学校			
工科技術専門課程			
ロボット科(二年制)	40	—	80
電子・電気科(二年制)	120	—	240
一級自動車整備科(四年制)	25	—	100
自動車整備科(二年制)	100	—	200
応用生物学科(二年制)	40	—	80
建築学科(四年制)	80	—	320
建築設計科(二年制)	120	—	240
土木・造園科(二年制)	40	—	80
機械設計科(二年制)	40	—	80
インテリアデザイン科(三年制)	40	—	120
プロダクトデザイン科(三年制)	40	—	120
情報科学専門課程			
ゲームクリエイター科(四年制)	80	—	320
ゲームクリエイター科(二年制)	80	—	160
CG映像科(三年制)	80	—	240
情報処理科(二年制)	120	—	240
パソコン・ネットワーク科(二年制)	40	—	80
情報ビジネス科(二年制)	40	—	80
Webクリエイター科(三年制)	40	—	120
ITスペシャリスト科(四年制)	40	—	160
AIシステム科(二年制)	80	—	160
医療事務科(二年制)	40	—	80
芸術専門課程			
マンガ・アニメーション科(二年制)	120	—	240
放送芸術科(二年制)	80	—	160
声優・演劇科(二年制)	80	—	160
コンサート・イベント科(二年制)	120	—	240
音響芸術科(二年制)	40	—	80
ミュージックアーティスト科(二年制)	80	—	160
スポーツ健康学科(二年制)	80	—	160
スポーツトレーナー科(二年制)	40	—	80
スポーツトレーナー科(三年制)	40	—	120
スポーツ健康学科(三年制)	40	—	120
グラフィックデザイン科(三年制)	40	—	120
マンガ・アニメーション科(四年制)	40	—	160
医療専門課程			
鍼灸科(三年制)	30	—	90
柔道整復科(三年制)	30	—	90
教育・社会福祉専門課程			
こども学科(二年制)	80	—	160
計	2,265		5,440

日本工学院専門学校			
工業専門課程			
ゲームクリエイター科(四年制)	160	—	640
ゲームクリエイター科(二年制)	120	—	240
CG映像科(三年制)	120	—	360
	0	—	0
	0	—	0
	0	—	0
ITスペシャリスト科(四年制)	80	—	320
AIシステム科(二年制)	80	—	160
情報処理科(二年制)	160	—	320
ネットワークセキュリティ科(二年制)	40	—	80
情報ビジネス科(二年制)	80	—	160
電子・電気科(二年制)	120	—	240
	0	—	0
建築学科(四年制)	40	—	160
建築設計科(二年制)	80	—	160
機械設計科(二年制)	40	—	80
芸術専門課程			
放送芸術科(二年制)	160	—	320
声優・演劇科(二年制)	120	—	240
演劇スタッフ科(二年制)	80	—	160
マンガ・アニメーション科(四年制)	40	—	160
マンガ・アニメーション科(二年制)	200	—	400
	0	—	0
	0	—	0
ミュージックアーティスト科(二年制)	80	—	160
コンサート・イベント科(二年制)	400	—	800
音響芸術科(二年制)	120	—	240
ダンスパフォーマンス科(二年制)	80	—	160
デザイン科(三年制)	80	—	240
計	2,480		5,800
日本工学院北海道専門学校			
工業専門課程			
情報処理科(二年制)	60	—	120
建築学科(二年制)	50	—	100
電気工学科(二年制)	40	—	80
自動車整備科(二年制)	50	—	100
文化・教養専門課程			
CGデザイナー科(二年制)	20	—	40
公務員1年制学科	30	—	30
公務員2年制学科	30	—	60
医療専門課程			
医療事務科(二年制)	20	—	40
商業実務専門課程			
ホテル科(二年制)	30	—	60
計	330		630
日本工学院八王子専門学校			
工科技術専門課程			
ロボット科(二年制)	40	—	80
電子・電気科(二年制)	120	—	240
一級自動車整備科(四年制)	25	—	100
自動車整備科(二年制)	100	—	200
応用生物学科(二年制)	40	—	80
建築学科(四年制)	80	—	320
建築設計科(二年制)	120	—	240
土木・造園科(二年制)	40	—	80
機械設計科(二年制)	40	—	80
	0	—	0
	0	—	0
情報科学専門課程			
ゲームクリエイター科(四年制)	80	—	320
ゲームクリエイター科(二年制)	80	—	160
CG映像科(三年制)	80	—	240
情報処理科(二年制)	120	—	240
ネットワークセキュリティ科(二年制)	40	—	80
情報ビジネス科(二年制)	40	—	80
	0	—	0
ITスペシャリスト科(四年制)	40	—	160
AIシステム科(二年制)	80	—	160
医療事務科(二年制)	40	—	80
芸術専門課程			
マンガ・アニメーション科(二年制)	120	—	240
放送芸術科(二年制)	80	—	160
声優・演劇科(二年制)	80	—	160
コンサート・イベント科(二年制)	160	—	320
音響芸術科(二年制)	40	—	80
ミュージックアーティスト科(二年制)	40	—	80
スポーツ健康学科(二年制)	80	—	160
スポーツトレーナー科(二年制)	40	—	80
スポーツトレーナー科(三年制)	40	—	120
スポーツ健康学科(三年制)	40	—	120
	0	—	0
	0	—	0
マンガ・アニメーション科(四年制)	40	—	160
デザイン科(三年制)	80	—	240
医療専門課程			
鍼灸科(三年制)	30	—	90
柔道整復科(三年制)	30	—	90
教育・社会福祉専門課程			
	0	—	0
計	2,105		5,040